

齋藤委員長代理の海外出張報告について

平成 16 年 4 月 27 日

1. 渡航目的

韓国原子力産業会議/韓国原子力学会の共同主催の第 19 回年次大会に出席し、我が国の原子力の現状についての招待講演を行うとともに、韓国の原子力関係者と意見交換を行う。

2. 出張者及び日程

(1) 出張者：齋藤原子力委員長代理

(2) 日程：平成 16 年 4 月 25 日(日)～4 月 26 日(月)

4 月 25 日(日) 成田発 ソウル着

26 日(月) 招待講演 ソウル発 成田着

3. 結果概要

(1) 標記年次大会には韓国内から約 400 名、海外から約 100 人が参加し、展示には韓国外からウェスティングハウス、アレバ、BNFL の各社も参加し、呉明(オ・ミョン)科学技術大臣も歓迎の挨拶を行った。

(2) オープニング・セッションにおいて、6 人のキーノートスピーカーの 1 人として「Current Status and Prospective of Nuclear Industry including Advanced Nuclear Technologies in Japan」と題する講演を行い、高温ガス炉と水素製造及び I T E R 計画など先進技術を含め我が国の原子力産業の現状について説明した。限られた時間で我が国の原子力研究開発及び産業の現状についてわかりやすく紹介し好評であった。

中国、フランスからは日本の原産大会における講演と同じ内容が示され、米国からはここ 10 数年来の規制緩和等による稼働率の上昇により原子力発電量は 23 基の発電所の新設に相当する増加があったこと、しかし、

現実に新規建設のためには種々の課題があることが紹介された。また、韓国からは今後の安全規制には国民とのコミュニケーション、パブリックアクセプタンスが重要であること、ルーマニアからはチェルナボーク2、3号機の導入には CANDU 炉の運転経験を有する国の協力を必要とすること等が報告された。

- (3) 呉大臣をはじめ韓国原子力産業会議、原子力学会、研究所等の要人と短時間ではあるが懇談を持つことができ、ITERの日本誘致についても引き続き協力を要請した。また、呉大臣をはじめ韓国科学技術省及び韓国原子力研究所は高温ガス炉の開発とそれによる水素製造に熱烈な関心を抱いており、全面的な協力を要請され、引き続き協議を行うこととした。

以上